

市政に対する 一般質問

11月 25・26・27・28日 12月 1日

発言順

藤江 康儀

(改革みしま)



三ツ谷工業団地計画図

■三ツ谷工業団地の進行状況

Q 三島市の成長戦略の一つである三ツ谷工業団地の開発が進められているが、その進行状況を伺う。

A 分譲予定面積の半分以上の予約をいただき、地権者の方からは9割以上承諾をいただいている。市の将来にとって重要な事業であり、平成28年3月の市街化区域編入に向け、全庁一丸となり事業を進めている。

■三島市の子ども・子育て支援新制度

Q 新制度では園児一人当たりの補助金が少なくなる場合もあるが、幼稚園、認定こども園も保育園と同様に応能負担にしているかどうか。

A 子ども・子育て支援新制度においては、幼稚園、保育園、認定こども園の種類や公立、民間の区別なく、保育料について保護者の属する世帯の所得の状況その他の事情を勘案して市町村が定める額となっており、応能負担となる。

川原 章寛

(新未来21)



■公共施設の最適化による将来負担の軽減を

Q 公共施設の一斉更新が迫り、統廃合も余儀なくされるが、市民の理解を得るため参加型の公開討論会を開催すべきと考えるがどうか。

A 納税者と施設利用者の立場からの視点で議論していただくための方法やタイミングなどについて、実施予定の市民アンケートの意見や結果を踏まえた上で検討し、適宜適切な時期に意見交換の場を設けたいと考えている。

Q 公共施設の最適化・ファシリテイマネジメントを推進するため、財政部へ専門部署を設置し、体制を強化すべきと考えるがどうか。

A 現在政策企画課が事務局を務め、公共施設マネジメントの策定作業に取り組んでいるが、今後施設の個別計画を含む保全計画策定や計画推進の過程において、財政部への移管や専門部署の設置なども含めて庁内で検討を進めていく。

野村 諒子

(フォーラム三島)



託児ボランティア (イメージ)

■活動支援託児ボランティアの育成

Q 子育て世代の市民活動、自己研さんなどを支援するため、託児ボランティア育成事業の導入はできないか伺う。

A 市政への女性参加を促進し、子育て中の母親が活動しやすくするために、子育て支援サービスのより一層の拡大を推進する必要があることから、今後託児グループの育成や活動支援、その活用を実施していきたいと考えている。

■楽寿園入園パスポートの導入

Q 楽寿園の三島駅前という好立地を生かし、もっと日常的に市民などが楽しめる公園にするため、パスポートの導入について伺う。

A 楽寿園運営委員会からの提言を踏まえ、平成27年度からの年間パスポートの運用開始および大学生まで入園無料化の実施を検討する。また、楽寿園無料招待券の発行については、年4回から1回へ縮小していきたい。

秋津 光生

(公明党)

【他の質問事項】

□空き家対策と空き事務所対策



平成26年度成人式

■30歳の成人式の開催

Q 同級生というネットワークを生かし、地域活性化なども期待できる30歳の成人式の開催を検討してはどうか。

A 都会で暮らす若者の、故郷を考える機会やUターンの動機付けとなれば、移住促進や地方創生の趣旨に合致する。事例を調査し、効果があるようならば、形式や言葉、イベント規模などにとらわれず、方法や支援などについて研究する。

■市営納骨堂の建設

Q 最近、墓じまいをされる方が増えていると聞く。市の納骨堂の建設予定地は狭いため、永代供養だけの施設を検討してはどうか。

A 納骨堂の収蔵方法には様々な方法があるので、どの様な方法が最善か、三島墓園納骨堂整備可能性調査の結果を踏まえ判断する。また、納骨堂建設についても墓地需要などを考慮した上で建設計画を進めていく。

細井 要

(改革みしま)



三島梅花藻の里

■P L三島教会跡地の 用地買収の必要性

Q 三島は水の都であり、三島梅花藻の里の湧水が濁ったことは大きな問題である。貴重な自然環境の保全は市の責務と考えるがどうか。

A 三島梅花藻の里の水源は大変貴重で、その保護、保存、利活用は三島市の責務であり、対応は急務と考えている。市による用地取得が最善策となれば、早急に取得し、三島梅花藻の里と一体的な親水公園整備が望ましいと考える。

■箱根西麓の地下水調査の 実施

Q 箱根西麓の水源涵養機能は飲料水源以外にも、企業誘致や三島湧水などにも関連するため、地下水の調査は重要と考えるがどうか。

A 現在、静岡県水利用課が箱根西麓を含めた県東部地域の地下水賦存量調査を開始している。この調査により地下水の利用可能量や取水基準の検証などが示される予定であるので、調査結果を精査した上で実施するか検討する。

下山 一美

(日本共産党議員団)



訪問介護 (イメージ)

■定期巡回・随時対応型 訪問介護看護の実施

Q 第6期介護保険事業計画では、定期巡回随時対応型訪問介護看護事業を実施するかどうか、三島市の考え方について伺う。

A 定期巡回・随時対応型訪問介護看護を新たに実施する方向で、高齢者保健福祉及び介護保険運営懇話会に提案し、次期計画への位置付けについて検討を進めている。今後も懇話会において十分に協議していく。

■三島市の特異な差し押さえ の実態

Q 三島市の国保税滞納者に対する差し押さえ件数は、県下の他の自治体と比べても特異に多いが、市の認識を伺う。

A 差し押さえ件数は担当課の所掌業務数と姿勢によって大きく差が出る。当市は納税している方と滞納している方との間に公平性を確保するという使命感を持って臨んでおり、そのことが差し押さえ件数という形で現れていると考える。

18人の議員が行った主な質問について、寄せられた原稿を掲載します。